# ナナツミ

株式会社セブン-イレブン・ジャパン　鈴木 鉄士 さん

～推しと、未来を、つみ上げる～



好きが、力になる。
未来を、つみ上げていこう。


鈴木鉄士は、
セブン-イレブンで
新しい事業の可能性を
考えていた。


キャッシュレス化が進み、
若い世代にとって銀行は
「身近だけれど
遠い存在」に
なりつつあった。


銀行は、
若い人たちの
"好き"と
つながれないだろうか…


けれど、
若者たちは
何かに強く
熱中していた。


鈴木が考えていたのは、
単なる新サービス
ではなかった。
「これから先、若い世代に
選ばれる銀行で
いられるのか」
――それが出発点だった。


・若年層
・日常接点
・熱中するもの
まずは若い人たちが、
何にお金を使い、
何に心を動かされて
いるのかを知らなければ…


そうして鈴木は、
現場へ向かった。


秋葉原に足を運ぶと
そこには想像以上の
熱気があった
IDOL★LIVE
グッズ売り場には
長い列ができていた
LIVE GOODS SHOP
すごい
これほど多くの人が
このライブのために
ずっと楽しみにしてたんだ


推し活は
ただの趣味ではなかった
会場に来るだけで
もう最高です
人を前向きにする
大きな力なんですね
推しがいるから
毎日を頑張れるんです


推し活で
一番困るのは何ですか
聞き取りを
重ねるうちに
悩みが見えてきた
チケット代 遠征費
交通費 宿泊費
楽しみなはずの推し活が
負担になる瞬間があった
ライブやグッズが重なると
お金が追いつかないんです


突然のイベント告知
イベント申込み
参加チケット
¥7,000
申込み期限
最終日
残高が不足しています
お支払いが完了できません
現在の残高
¥2,350
お支払いへ進む
申込期限は今日
行きたいのに
申し込めない…
機会そのものを
逃してしまうのか

鈴木はまず、
一つの案を考えた。

推し活専用に
少しずつ積み立てられる
口座があれば
いいのでは…？

推し活用
積立口座

日頃から準備できれば、
突然の出費にも
備えられる。

毎月少額積立する

目標

1回目　2回目　3回目　…　n回目

月額　￥20,000
年間　￥240,000
10年後　￥2,400,000

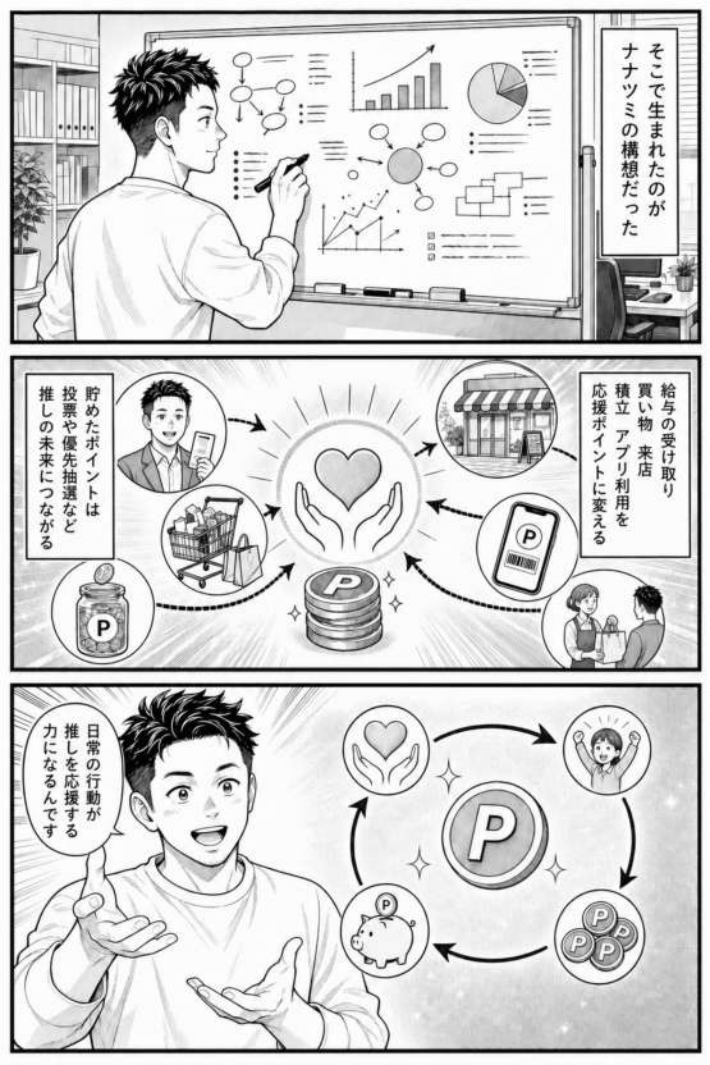
でも…
本当にそれだけで
足りるのだろうか


少しお話を
聞かせてもらえますか


インタビューを重ねる中で
鈴木は本当の声に出会う


お金を貯めたい
というより
推しに貢献したいんです
自分の応援が
届いたって
感じたいんです


夜遅くまで
鈴木は考え続けた
貯金　→×
応援への参加→○
本当に欲しいのは
貯金ではなく
応援への参加
推しに近づくための
仕組みに
変えればいい
お金を
貯める金融じゃない


そこで生まれたのが
ナナツミの構想だった
給与の受け取り
買い物　来店
積立　アプリ利用を
応援ポイントに変える
貯めたポイントは
投票や優先抽選など
推しの未来につながる
日常の行動が
推しを応援する
力になるんです


Special Event


VOTE
COSTUME PROJECT
投票できるだけで
もっと応援したくなる
VOTE


応援に参加する体験
そのものが
人を動かしている


私の一票も
推しの力になれるんだ

そこで彼は
日常と推し活を
つなぐ仕組みを考えた

ATM

買い物や支払いが
応援のきっかけになる

7-ELEVEN

1,250P

日常

買い物
コーヒー
食事
支払い
宅配

推し活

ライブ
グッズ
音楽
イベント
記念日

セブン-イレブンやATMなど
日常の接点を
推し活支援に変えられます


データを見直すうちに
若年層の行動の流れが
見えてきた
若年層
口座開設
来店・購入
セブンイレブン
積立
口座開設から来店
そして少額積立へ
若年層の行動フローを一目で可視化！
無理なく
続けられる仕組みが
必要だ
推し活の先に
将来の安心も
生み出せる
INSURANCE


そんな時
社内では
SMiLEの募集が
始まっていた
SMiLE
募集案内
彼は通常業務の後も
何度も資料を
磨き続けた
本当に
伝わる
企画にしたい


厳しい質問が飛び交う
本当にこれで若年層が動くのか
それでもこの提案には意味がある


発表当日
直前まで
資料を見直し
ここからが
本番だ


ユーザーの悩み
頑張っても
成果が続かない
モチベーションを
保てない
誰かに認めて
ほしい
続けられない
という悩みを
応援の力で変えます


サービスコンセプト
応援が、力になる世界へ
日常の行動を、誰かの応援に変える
日常の行動を
誰かを応援する価値に変える
それがこの企画です


日常の行動が、応援ポイントに
日常の行動
アクションを
記録
応援ポイント
に変換
誰かを
応援できる
歩数や勉強などの行動が
応援ポイントになります


会場の空気が
少しずつ変わっていった


審査員たちは
真剣な表情で
耳を傾けた
提案は
高く評価され
採択企画は
この提案です


そして企画は
実装へと進んだ
アプリには
応援ポイントが貯まり
12,450
推し活は
もっと身近な体験へ
変わっていった
日常の行動が
応援につながっている


日常の中で
応援は広がっていく
その積み重ねは
推し活だけで終わらない
自分の未来も
誰かの未来も
明るくしていく
この仕組みを
もっと多くの人へ
届けたい